



字を書くということ(書き初め大会)

3年生以上の子どもたちは、毛筆で書き初め大会を行いました。みんなが集中して、真剣に字を書く書き初め大会は、新年にふさわしい活動です。書写の教科書には、書き初めについて、右のように示されています。

書き初めの由来はいろいろあるようですが、新年の思いや目標などを書や絵で表すことは、日本の伝統的な文化の一つと言えます。大人になると、なかなか筆を持つ機会がないのですが、毛筆で書くことは大事にしたいものです。

タブレット端末やスマートフォン全盛の時代ですから、字は「書く」というよりも「打つ」ものになっています。それでも「書く」活動はなくならないと思います。記憶する力は、五感をフルに活用した方が高まると言われています。筆で文字を書くこととタブレット端末などで文字を打ち込むことでは、五感を使う量に大きな差があるはずで、普段は毛筆ではなく鉛筆ですが、文字を書くことが、覚えることにつながる場合もあることでしょう。「書くこと」と「打つこと」のバランスを考えながら、活動していきたいと思えます。

昔は、道具や紙などが貴重だったでしょうから、きっと慎重に文字を書いていたはずで、残っている昔の毛筆の資料を見ると、どれも美しい字が並んでいます。昔と同じようなことはできませんが、場面に応じてゆっくり丁寧に書くことも大切にしたいと思えます。ちなみに、私は、書道教室に通って10年くらい経ちます。静かに自分と向き合う時間を大切にしたいという思いで、今も稽古に励んでいます。それでも、上達への道のりはなかなか険しいものです。

冬休み中、大きな事故やけががなく過ごすことができたのも、保護者の皆様のご協力のおかげです。3学期が始まって、1週間が経ちました。子どもたちは、元気に学校生活を送っています。目標を立ててそれに向かって取り組むように、各学級で指導をしていますので、子どもたちは前向きに活動しています。今後も子どもたちの様子について、しっかり見守っていききたいと思えます。

【書き初め】

古くから、正月2日を1年の事始めとし、その年の目標などを書いたことが始まりとされています。1月15日頃に「どんど焼き」の火の中で焼いて燃やした紙が高く舞い上がるほど、字が上達すると言われていました。

(小学書写4年教育出版 P50 より)

